

調査研究のねらい

今日、子どもたちの実態として、生活体験が不足しているのが現状であり、子どもたちが豊かな人間性や社会性を育むために、学校教育において、様々な体験学習を充実させることがますます重要になっている。学習指導要領では、「生きる力」の育成をめざす観点から、配慮すべき事項として、「各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や問題解決的な学習を重視するとともに、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること」が求められている。また、平成13年、学校教育法が改正され、教育指導を行うに当たり、「体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとする」ことが新たに明記された。このような状況を踏まえ、各学校では、「特別活動」や「総合的な学習の時間」等と関連づけて、地域や学校、生徒の実情を踏まえて、様々な活動の場や機会を工夫して、多彩な体験活動を展開しているところである。

学校行事として実施される「旅行・集団宿泊的行事」である修学旅行の場合は、学校の外が教育の場となり、自然や文化などに親しむ体験学習の実際的な機会として貴重である。修学旅行を「単なる物見遊山に終わることのない有意義な旅行・集団宿泊行事を計画・実施していくよう、十分に留意することが大切である」と指摘されているのは当然といえる。

関修委の調査によれば、修学旅行における体験学習の実施率は、平成11年61.8%、12年72.2%、13年74.5%、14年74%、15年78.6%、16年79%、17年80.2%と年々増加しており、各学校は、生徒の実態や地域の特性、過去の修学旅行の反省等を考慮して、様々な企画・運営により実施している状況がうかがえる。

本年度は、修学旅行の実施状況の継続調査をするともに、修学旅行における各学校の体験学習の意義・ねらいや実践のあり方、今後の課題等についてアンケートを実施し、関東地区の全体把握を中心にまとめ、各学校の参考に供するとともに、修学旅行における体験学習の充実を図っていくことをねらいとして研究を進めた。

調査の概要

1. 調査対象

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県の公立中学校（一部、県立中等教育学校を含む）

2. 調査の時期

平成18年度6月～7月

3. 調査の内容

- (1) 実施の概況(実施日数、実施時期、旅行方面、宿泊地、体験学習を含めた生徒一人あたりの旅行費用)
- (2) 今後(3年先)の修学旅行に対する考え方
- (3) 修学旅行での体験学習について(調査時期以降の実施校については、予定を含め記入とした。)

4. 回答状況

対象校数 1,380 校 回答校数 1,210 校 (87.7%)

群馬県、埼玉県の実施校には県立中等教育学校を各々 1 校含む。

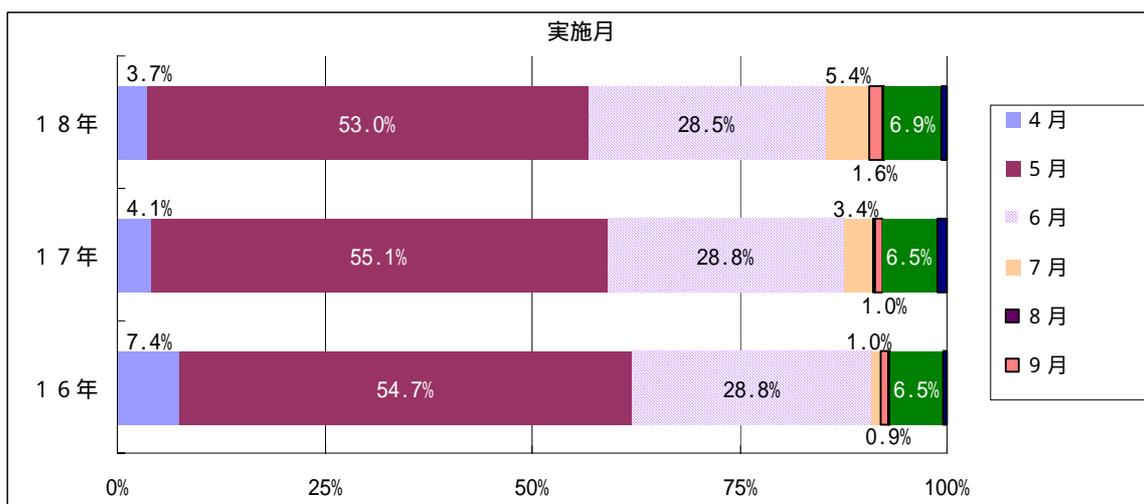
栃木県では、3 校連合実施は 1 校として回答校数に含む。

千葉県で 1 校「実施なし」あり。回答校数には含む。

アンケート実態調査から見た現状

1. 修学旅行実施の概況について

(1) 実施月



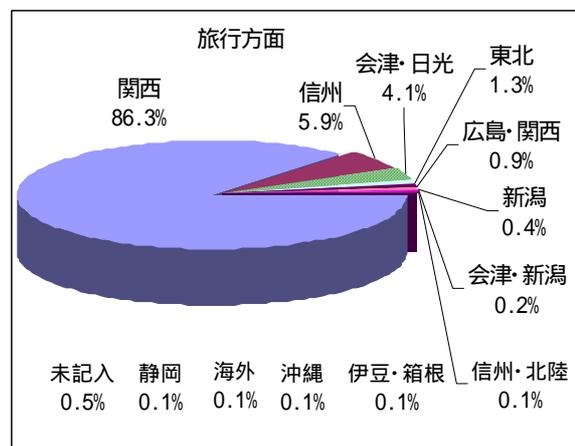
- ・ 5月の実施校が 53.0%と最も多く、6月の 28.5%と合わせると 81.5%になる。4月の実施校を合わせると 85.2%になり、春季の実施傾向は例年通りである。
- ・ 埼玉県の実施校は昨年度より増加している。12～3月の実施校は第2学年実施である。

(2) 実数日数(千葉県の実施なしは除く)

- ・ 3日間実施がほとんどで 99.0%を占める。
- ・ 千葉県では2日間2校、栃木県では4日間1校、群馬県では7日間の長期旅行が1校(海外・夏休み)がある。

(3) 旅行方面

- ・ 例年通り、関西方面が最も多く、86.3%(1,043校)を占めている。
- ・ 千葉県では、他に信州、会津・日光、信州、東北と旅行方面が多岐にわたっている。他の4県はほぼ関西方面で大きな変動はない。
- ・ 沖縄が1校(栃木県)にある。



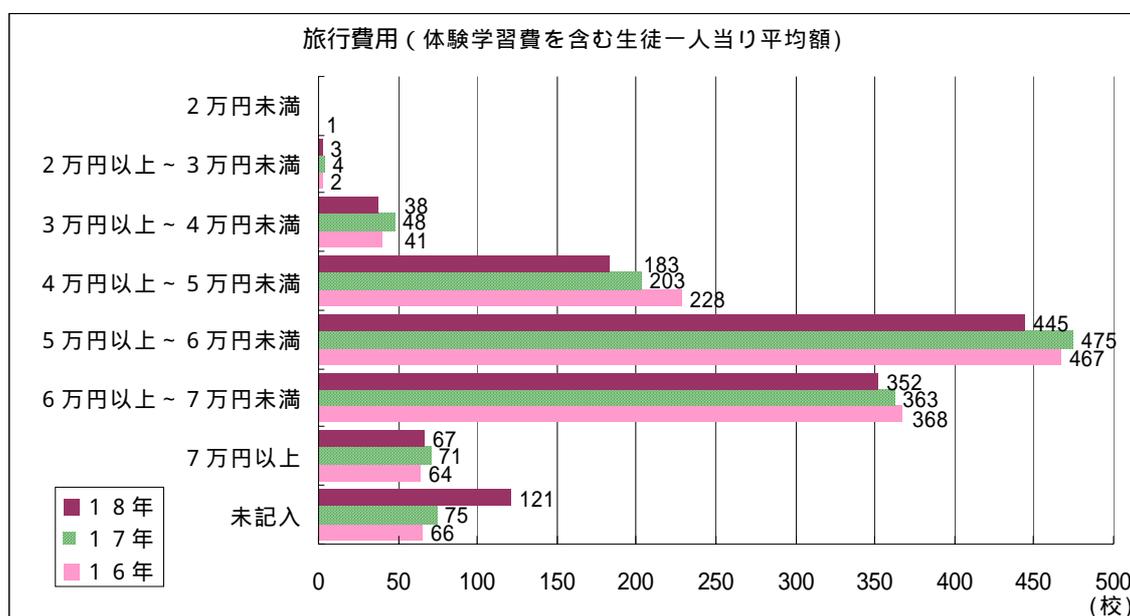
(4) 宿泊地

- ・各府県別に見ると、京都府が圧倒的に多く、しかも連泊が多い。次いで、長野県、福島県、滋賀県等となっているが、この方面では連泊よりも、宿泊地を組み合わせる実施することが多くなっている。

各府県内の主な宿泊地

- 青 森：青森市、鱒ヶ沢
- 岩 手：奥州市、安比高原、つなぎ温泉、花巻市、一関
- 宮 城：秋保
- 山 形：山形市（蔵王）、南陽市、高畠町
- 福 島：会津若松、猪苗代、裏磐梯、南会津、喜多方、郡山
- 栃 木：日光市、
- 群 馬：谷川岳
- 神奈川：箱根
- 山 梨：河口湖
- 長 野：諏訪、八ヶ岳、松本、上高地、乗鞍、白馬、大町、北信濃、木曽路、伊那路
- 新 潟：十日市町、奥阿賀
- 岐 阜：高山市
- 静 岡：静岡市（清水）
- 滋 賀：大津市、草津市、守山市、長浜市
- 京 都：京都市、宇治市、亀岡市
- 大 阪：大阪市
- 兵 庫：神戸市、淡路島（福良）
- 奈 良：奈良市、吉野
- 和歌山：新田辺市
- 広 島：宮島、広島市
- 沖 縄：恩納村、那覇市

(5) 旅行費用

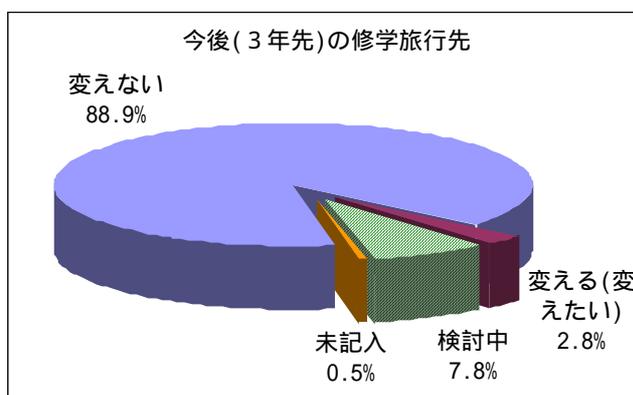


- ・旅行方面、体験活動、班別活動費などの条件により、差がある。
- ・体験活動費を含む平均額は、表から 50,000 円台が多いが、60,000 円以上の割合も増えている。

今後(3年先)の修学旅行の考え方

(1) 旅行先について

- ・「旅行先を変えない」との回答が一番多く 88.9% (1,075 校) である。
- ・「旅行先を変える」と「検討中」の計は 10.6% (128 校) という結果であり、中でも、千葉県がやや多くなっている。



(2) 旅行先を変える(変えたい)学校の旅行先と事由

旅行先は

- ・東北、会津方面の実施校は主に信州、関西方面となっている。
- ・信州方面実施校は東北、関西方面となっている。
- ・関西方面実施校は、神戸・広島、北陸・東北、信州など多岐にわたっている。

事由は

生徒にとってより充実した修学旅行を実施するため、特に体験学習の実施内容を重視して旅行先を見直すという意見が多くあった。

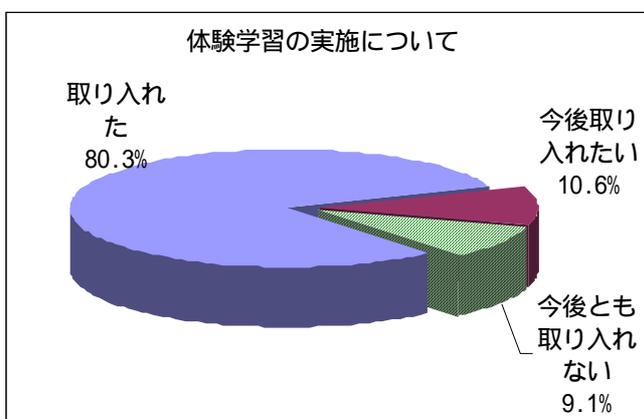
修学旅行での体験学習について

問1 平成18年度の修学旅行に体験学習を取りいれましたか。

ア 取り入れた(950校)

イ 今後取り入れたい
(125校)

ウ 今後とも取り入れない
(108校)



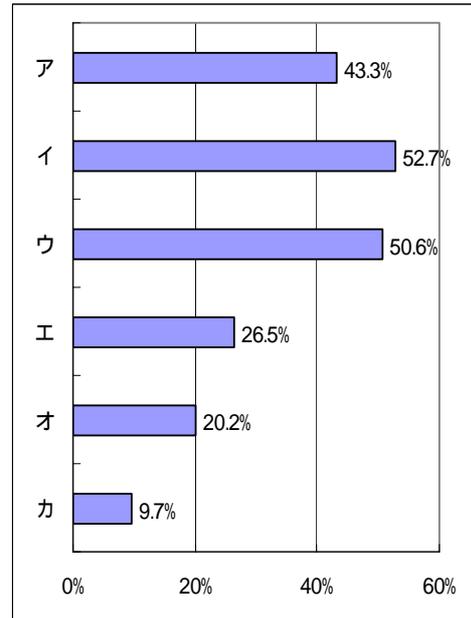
平成18年度、体験学習を「取り入れた」学校は 80.3% (950 校) である。「今後取り入れたい」10.6%を加えると 90.9%になる。体験学習の実施率は、年々微増の傾向ではあるが過去3年間を見ると、概ね80%前後に定着してきた感がある。なお、「今後も取り入れない」とする学校が9.1%あった。

問2～問6は複数回答のため、回答校数1,075校に対する各設問の回答比率を示した。

問2 あなたの学校では、その教育的意義をどのように設定されていますか。

〔以下全問、「ア、イ」と答えた学校のみ、3つ以内選択〕

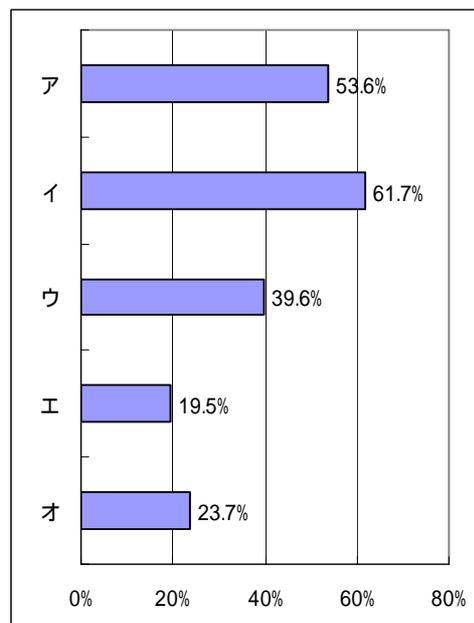
- ア 学習への関心・意欲を高める
- イ 学習の満足感や成就感を体得させる
- ウ 一人一人に主体的・追究的な活動をさせる
- エ 自ら課題を見出し解決する能力を養う
- オ 知識を統合し、生きて働く知恵を獲得させる
- カ 自らの考えを積極的に表現させる
- キ その他
 - ・知識の幅を広げる
 - ・社会交流をする
 - ・コミュニケーション能力を高める
 - ・自分の生き方について考える機会とする
 - ・日本文化への興味関心を持たせる
 - ・良き思い出をつくる



各学校においては、それぞれの地域や学校、生徒の実態、学年方針などを踏まえ、また、旅行方面、体験活動の実施内容などを考慮して適切に設定されるものである。多くの学校が2～3項目を複数選択していたが、もっとも高率を示したのは「学習の満足感や成就感を体得させる」の52.7%と一番多く、「一人ひとりに主体的・追究的な活動をさせる」50.6%、「学習への関心・意欲を高める」43.3%などと続いていた。

問3 体験学習における事前指導（準備）をどのようにされましたか。〔3つ以内選択〕

- ア ねらいを明確にし、ねらいに応じた体験の質の向上を図る
- イ 体験場所・内容の事前調査を行う
- ウ 活動の展開に必要な資料を十分用意する
- エ 修学旅行中の体験と日住の学校生活との継続性を図る
- オ 実りある体験学習にするために教師の助言・指導を充実させる
- カ その他
 - ・調べ学習を充実させる
 - ・集団行動、服装、マナーを充実する機会とした
 - ・体験先指導者との人間的な交流
 - ・美術科の授業の一貫として位置づけ指導した



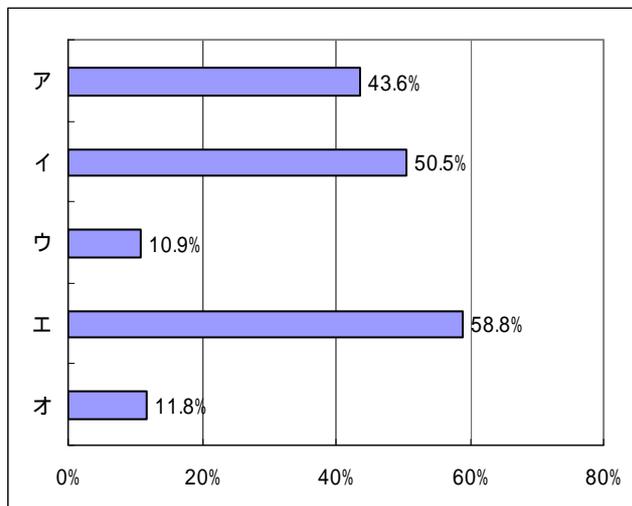
生徒の主体的な活動を促し、喜びや達成感につながるように、生徒が事前学習にも意欲を持って取り組ませる必要がある。

事前指導として重視している取り組みを聞いたところ、「体験場所・内容の事前調査を行う」61.7%、「ねらいを明確にし、ねらいに応じた体験の質の向上を図る」53.6%、「活動の展開に必要な資料を十分用意する」39.6%の順に多くなっていた。

問4 体験学習実施にあたって、特に留意したところは、何ですか。（したいことは、）
〔3つ以内選択〕

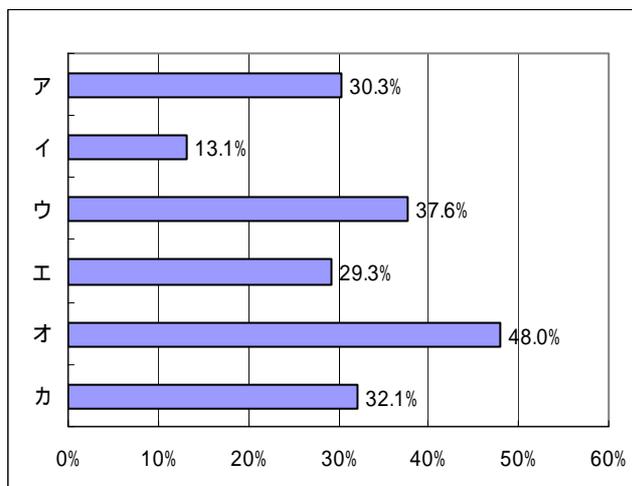
(1) 学習支援

- ア 学習手段の確認
- イ 集団・個人相互の協力体制
- ウ 意欲を示さない生徒の指導
- エ 体験活動中の礼儀・作法
- オ 教師のきめ細かな巡回指導
- カ その他
 - ・事前の調査
 - ・事前の練習
 - ・目標、ねらい、テーマの明確化
 - ・活動時間や内容の統一化



(2) 安全対策

- ア 管理マニュアルの策定
- イ 電話連絡網の作成
- ウ 携帯電話の活用
- エ 体験中のケガ・病気
- オ 安心できる業者の選定
- カ 傷害保険への加入
- キ その他
 - ・貸切タクシーなどの交通手段
 - ・シルバーガイドの活用
 - ・発信機着用
 - ・危険箇所を下見
 - ・ルールの徹底
 - ・他校とのトラブルを起こさないように細かく連絡

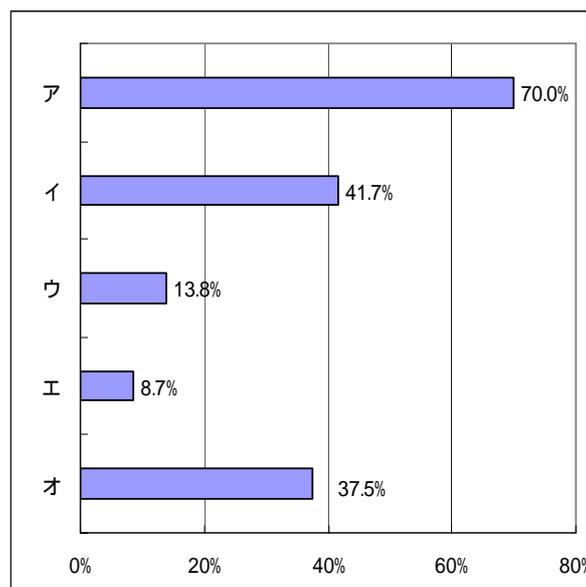


(1) 学習支援として、特に留意したことは、「体験活動中の礼儀・作法」58.8%と最も多くなっている。以下、「集団・個人相互の協力体制」50.5%、「学習手段の確認」43.6%、「教師のきめ細かな巡回指導」11.8%、「意欲を示さない生徒指導」10.9%の順に続いていた。

(2) 安全対策としては、「安心できる業者の選定」48.0%、「携帯電話の活用」37.6%、「傷害保険への加入」32.1%、「管理マニュアルの策定」30.3%、「体験中のケガ・病気」29.3%と続いていた。

問5 事後指導は、どのようにされましたか。(されますか。) [3つ以内選択]

- ア 体験した内容をまとめる
- イ 発表する機会をつくる
- ウ 集録を作成する
- エ 個々の評価カード等を作成する
- オ 今後の生活や学習指導に生かす
- カ その他
 - ・新聞づくり 個人新聞をつくる
 - ・作文、文集の作成
 - ・報告書(冊子)の作成
 - ・体験先へのお礼状
 - ・作品の展示
 - ・作品の評価
 - ・総合学習につなげる

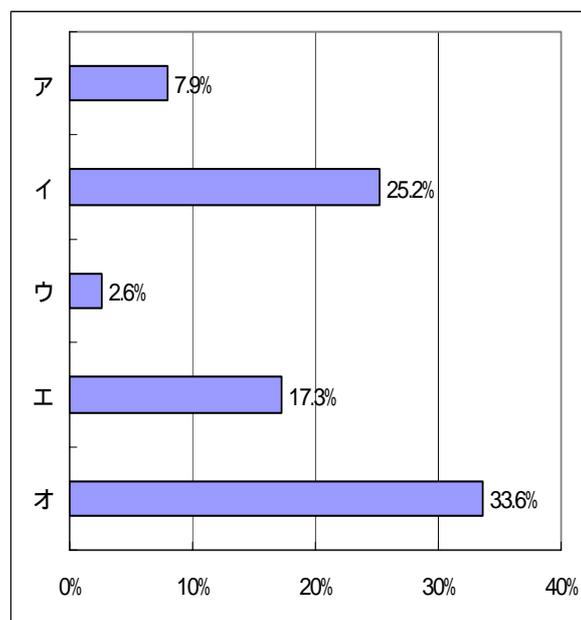


事後指導としては、体験学習の成果が、今後の学校生活や授業の中で生かされるような内容を工夫することが求められる。学校では諸条件によって様々な方法が模索されている様子が見られる。

「体験した内容をまとめる」70.0%、が最も多く、これは学習成果を作文、アンケート、写真展示、新聞づくり、報告書の作成などの方法でまとめるものである。「発表する機会をつくる」41.7%、今後の生活や学習指導に生かす」37.5%、「集録を作成する」13.8%と続いていた。

問6 今後の課題は何ですか。 [3つ以内選択]

- ア ねらいが十分達成できなかった
- イ 事前指導が不足
- ウ 安全対策が不十分
- エ 時間・経費の割に内容が不十分
- オ 個々への評価が不十分だった
- カ その他
 - ・生徒の活動を更に充実させる
 - ・体験活動の種類を多くしたい
 - ・課題や意欲など個人差が大きい
 - ・体験活動の時間を十分に保障すること
 - ・より良体験の選択
 - ・生徒個々に課題意識を持たせること
 - ・コースにより満足度が違う
 - ・希望する体験の受け入れ先を探すこと
 - ・体験学習の日数について



- ・今後の学校生活との継続性
- ・評価とまとめの方法
- ・体験先との連絡、調整
- ・保護者負担の軽減
- ・体験先の質の問題
- ・場所、内容、費用の検討が必要

今後、体験学習を進める際の課題となっていることは、「個々への評価が不十分であった」33.6%、「事前指導が不足」25.2%、「時間・経費の割に内容が不十分」17.3%、「ねらいが十分達成できなかった」7.9%、「安全対策が不十分」2.6%などであった。体験学習の内容を充実させるとともに、実施がその場限りの単発的なものに終わることなく、その成果を効果的に生かしていく工夫、改善が期待されている。

アンケート調査の分析結果から

今日、修学旅行においても、「生きる力」を育成する観点から、改めて、その意義・ねらいについての正しい理解と、充実した魅力的な企画・運営のあり方が求められている。

修学旅行の意義について、学習指導要領には「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化に親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」と示されている。それは単なる物見遊山ではなく、人間としての生き方の自覚、広い知見と豊かな情操の育成、学校のよき思い出づくり等の機会として貴重なねらいをもっている。

今回は、これらの修学旅行の意義・ねらいを基本的において、各学校の「修学旅行における体験学習について」のアンケート調査を実施し分析した。以下、調査結果の特徴的なものを報告する。

(1) 体験学習の実施について

体験的な活動がいっそう重視されている今日の状況を考えると、修学旅行に体験学習を取り入れる学校が8割以上になっているのは当然といえる。その内容は歴史文化体験（歴史文化遺産、創作）、社会体験（ボランティア、平和学習、農業体験）、自然・スポーツ体験など多岐にわたっている。しかし、「教育的効果のないもの」や「生徒の希望する内容がない」等、体験的学習本来の魅力に乏しい内容のあることも指摘されている。

一方、「今後も取り入れない」という学校が1割程度認められた。その理由として、「学校で様々な体験活動を実施しており、その必要がないと思う」「出来るだけ多く見学させたい」「生徒指導面での困難がある」などの意見があった。

(2) 教育的意義について

修学旅行における体験学習は、ただ単に体験の機会を与えさえすればよいというものではなく、各学校では、「生きる力」の育成の視点から、自ら課題を見つけ、よりよく解決する資質や能力や実践的な態度を身に付ける機会として、教育的価値の高い活動であると考えている。

そのためには、まずその体験活動に生徒が興味や関心をもって、自主的、自発的な活動が促されるものであることが重要な要件になる。また、体験活動での、満足感や成就感が生涯の楽しい思い出になるばかりでなく、これからの学ぶ意欲や生き方の向上につながるように、

その意義、ねらいを指導計画の中にしっかりと位置づける必要がある。

(3) 事前指導・事後指導について

活動の時間だけでなく、その事前・事後における教育活動や指導のあり方も重要であることはいままでのない。ねらいや生徒の実態等に照らして、最もふさわしい活動を選ぶことになるが、そのためにも事前に十分な情報の収集と体験場所への下見、事前打ち合わせが大切になる。

事後指導においては、学びの確認と、それを深め、次の学びに繋がっていくためにも適切に行う必要がある。ほとんどの学校で体験したことを新聞等にまとめたり、発表する機会を設けている。しかしながら、指導の時間が十分に確保できないという意見もある。総合的な学習の時間などとの相互関連を視野に入れて取り組んでいる学校も多いので、各学校が研究し、適切に対処していく必要がある。

(4) 留意点について

体験学習は生徒の自主性が重視されるが、「相手とかかわる」活動でもある。特に、体験活動中の礼儀・作法、望ましい人間関係、班別活動の協力体制など十分指導して臨むことが効果に繋がる。

安全対策については、「安心できる業者の選定」が第一にあげられていたことは注目される。実際のところ、学校では、体験場所の確保、時間設定や費用、受け入れ先との連絡、実施にあたっての渉外折衝などは、旅行業者と連携して企画していくことになる。したがって、充実した修学旅行を実施するためにも、安心できる業者の選定ということは重要なカギになっている。

安全対策としての旅行中の危険防止策や緊急対応については、事前準備の段階で十分配慮する姿勢が見られる。

(5) 今後の課題について

アンケート結果から、今後よりよい修学旅行を推進していくための課題として、次のようなことをあげることができる。

個々への評価を工夫すること

体験学習の経験が学習への興味・関心を高め、次の指導に生かすためにも評価を工夫することが重要になる。

事前指導を充実させること

これは、体験学習実践の前提条件である。事前指導の時間を確保するためにも、教育課程にしっかりと位置づけるべきである。

体験内容の把握について

体験内容によって、費用のかかりすぎるものがあり、保護者負担の軽減ということも課題となっている。また、受け入れ先が十分に確保出来なかったり、意義の認められない活動であったりという問題も出てきている。計画立案にあたっては、情報を正確に把握するとともに、受け入れ先と十分な打ち合わせをして準備していく必要がある。

安全対策について

下見ないし事前の打ち合わせを十分に行い、安全対策を万全にして事故を防ぐ、緊急時の対応についても検討しておく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した事前指導、事前準備を行うことが、実りある体験学習をすすめる一番の条件である。 ・事前に十分指導、評価することが大切である。 ・事前学習を行うことで、生徒の意欲が高まり、充実した体験学習が実施できた。 ・事前学習の過程で選択したものを実施したので満足感が得られた。 ・体験学習は、体験場所に内容をまかせきりにすることなく、事前・事後の指導を充実させたい。 ・事前学習を小グループで行うことにより、より多くの生徒の希望が叶えられるという利点がある。 ・体験学習に意欲を示さない生徒への事前指導を十分行う。 ・インストラクターによる事前指導で、内容を深く理解することができた。 ・社会科などで、伝統工芸や社寺、仏閣など生徒に事前学習し、意欲付け、実施すると学習効果上がる。 ・課題をもって、自主的、主体的に活動させることができ、よいと思うが、事前学習に多くの時間をとられた。 ・体験学習は、大変必要と考える。事前準備に多くの時間がかかってしまうのが大変である。 ・班別、クラス別に見学地を設定することにより、より関心をもって事前学習に取り組めた。時間をもっとあれば、さらに深められたと思うが、限られた時間のなかで、それなりの成果はあげられたと思う。 ・学校での事前学習には十分時間がとれないのが現実である。 ・事前・事後の指導の時間が十分に確保できないことが問題であろう。総合学習の時間等に計画的に組み込んで、有効な体験学習の取り組みにしていきたい。
時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面での指導を確実にし、事後指導を充実させる。 ・学習への関心意欲を高め、事後に発表する機会を作る。一人一人が自ら考え積極的に活動する場としたい。
	<p style="text-align: center;">体験内容に関して</p>
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れてくれる事業所を探すのに大変苦労した。情報が欲しい。 ・日程によって体験できる内容が限られてしまうので、より多様な資料提供を希望する。 ・多くの幅広い体験内容から選択できればと思う。それに関する資料が欲しい。 ・短い時間の中で充実した体験学習を行っていくためには、より広い情報と指導が必要だと感じる。 ・他校の事例を知り活用したい。 ・生徒の希望する内容がない場合など、十分体験学習ができない。 ・事前に体験学習の内容、情報を正確に把握する必要がある。 ・体験にかかる資料をまとめた冊子があるとよい。 ・体験学習は、必要なことと考えますが、生徒の実態や人数の多さのため、本校では厳しい現状であると考えます。また、体験学習等の一覧表があれば、参考にしていきたいと思います。 ・修学旅行の体験学習としてふさわしいものはどのようなものか。情報交換したい。 ・一人一人の生徒が充実した体験学習を実施するための予備知識が教師に不足している。 ・まず、教師が学習する価値を十分に認識し、指導に当たらなければ効果は期待できない。 ・現地でなければできない体験学習を1つ以上は計画に組み込ませたい。
情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で体験できるものを取り入れた。 ・生徒たちにとって具体的な形で思い出に残る体験活動が良いと思う。 ・視野を広げ実感として身につくものも多いので、今後も精選して子どもの実態に合ったものを選択する。 ・生徒の実態に応じて、内容を検討する必要がある。(実施時期、連泊泊の別、移動手段をふくめ) ・生徒に合わせた適切な内容のものを十分に検討する必要がある。 ・生徒の希望や意向を大事に、少人数、班別でおこなった。班別の方が有効。 ・生徒の興味・関心・実態に合った体験学習、教師・保護者の願いにあった体験学習にしたい。 ・生徒の興味関心を最優先して体験内容を決めている。 ・生徒個々の関心、意欲に合わせた内容にすることは難しい。
決め方	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に大変好評であった。(作動、座禅、法話、琴鑑賞、工芸制作、舞妓体験) ・体験学習を取り入れることで、郷土の歴史・文化遺産に多く触れられなくなっていたが、ワゴンタクシーを使用して移動にかかる時間が短縮され、体験学習と見学がバランスよくなった。生徒も満足している。 ・全員で清水焼の絵付けと班単位で八橋や和菓子の体験をしたがていねいな指導で生徒は満足していた。 ・清水焼の絵付け体験は、所要時間が適度で、内容も多色塗りができたので各自が集中して取りくめた。 ・自然に直接触れることにより、生徒の物の見方が広がった(琵琶湖)。 ・地方のグリーンツーリズム、村おこし等と連携して取り組めるとよい。 ・現地の自治会が紹介してくれた体験学習は良かった。 ・盛岡手作り村では、同じ場所で多くの体験学習を選べて良かった。
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・体験もマンネリ化してきているので新しい方向を考えたい。 ・体験学習内容のマンネリ化。(目標と金額の関係で制限される) ・体験時間の確保と、生徒個々の興味関心に合わせた体験の場を設定するのが難しい。
課 題	

体験学習先(費用・施設・安全管理等)に関して	
費用	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から預かる費用が高額であり、その中に占める体験学習の費用も大きい。十分費用に値するだけの体験内容、修学旅行としなければならない。 ・内容、費用などについて、事前の検討、指導を十分に行っておく必要がある。 ・経費がかかり生徒に負担をかける。 ・費用のわりに意義の認められない体験学習が多い。 ・費用や時間の割には、体験学習にあまり教育効果は期待できない。 ・時間的な制限があり、十分な体験学習にならない。 ・比較的安い費用で体験させると良いと思う。 ・体験させたいが、経費がかかりすぎる。 ・目的とする課題と経費との関係をどのように抑えるか。 ・体験費用がもう少し安く、人数が多く入れる施設があると良いのですが。 ・費用に差がでてしまい集金が大変である。 ・体験学習を取り入れたいが、生徒数が少ないので一人当りの負担額が多くなってしまふ。 ・内容は多いが、費用がかかるので、学級あるいは学年で実施した。
時間・日程	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習では、初めての地で交通機関や地理に不案内なのでタクシーを活用したい。 ・生徒は移動に精力を集中し体験学習面での成果が心配である。タクシーの活用も考えたい。 ・体験場所によっては混み合っていて、待ち時間が生じ、予定時間がずれてしまふ。 ・日程上無理が多く、今後も体験学習を取り入れる予定はない。 ・時間の設定が難しい。 ・どうしても時間がかかってしまい、見学する時間が少なくなってしまう。 ・体験学習が一般化し、受け入れ側の対応に機動的な対応が見られる場面もあったことと時間のゆとりがない。 ・体験学習のコース設定(内容、費用、時間、人数など)が難しい。受け入れ先に余裕が欲しい。 ・時間や経費の点を十分検討して、取り入れたい。
受け入れ・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れも充実してきており、振り分けも良かった。 ・受け入れ側も、いろいろ工夫してくれて、ありがたいことです。今後、さらに受け入れ場所が増えると便利になると思う。 ・受け入れ業者が慣れてきていて、ポイントを押さえた指導をしているので、生徒の満足度、成就感が高い。 ・受け入れ体制が整ってきている。 ・業者のお世話になり、生徒一人一人が満足できる体験ができた。今後も寄りよい体験をさせたい。 ・受け入れてくれる企業、事業所側の準備や体制が取れていた。 ・体験先と十分な連絡が取れない。 ・連携と協力の必要性。 ・生徒の受け入れ状況が不統一で、決定が難しい。 ・パンフレットには載っていても、電話すると「体験学習はもうやめました」という業者も少なくなかった。 ・施設に生徒・学校の予約が集中していて、予約の確保が難しい。 ・同じ時間に他校生と一緒にいることがある。避けたい。 ・5月実施だったので、体験学習の予約が大変難しい。 ・体験学習受け入れ業者の創意工夫が不可欠である。 ・受け入れ側が一時的に作成したプログラムの丸投げで行われている現状。 ・希望通り、体験場所を確保するのが難しい状況がある。 ・多くの学校が重なるので、体験場所の確保が難しい面も見られた。 ・生徒数が多いと体験先の確保が課題。 ・商業ベースでないものを実施したことがあるが、体験場所の確保に苦労した。しかし、大変大きな成果をあげた。 ・商業ベースに乗ってしまうような体験が多く、中には教育的効果の得られないものがある。 ・体験学習が観光事業の一環となっている現状がある。
安全面	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を活用して、連絡がスムーズにとれた。 ・体験活動中の生徒の安全確保と体験中の連絡の徹底について今後も検討していきたい。 ・班別行動等については、今後安全面には配慮が大いに必要になると思う。 ・事故がおきたときの対応、補償問題。 ・生徒の把握が難しいなど安全対策に課題が残る。 ・受け入れ側がボランティアを中心にしているので、安全管理面で不安がある。
体験学習の成果に関して	
主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ体験学習に熱心に取り組み、ねらいは達成できた。 ・積極的に取り組んでよかった。体験先も慣れて親切だった。
関心意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心に応じ、生徒主体の体験学習を設定できるようにしたい。 ・少人数で体験学習でき興味や関心の差にも対応できて良かった。 ・生徒が自分で選んだので関心・意欲が高まった。

満足成就	・クラス別、班別の体験活動は意欲的に活動できた。
	・満足感、成就感を体験させられた。
	・生徒一人一人 目標を持って取組ませることができた。
	・グループ別体験活動で、十分満足のいく体験活動ができた。
	・生徒の作文にも、体験学習の感動を書いたものが多かった。
	・体験することで、学習に対する充足度が高まった。
	・体験コースにより、充実感、満足感が異なる。
	・満足度の高い体験学習ができ、熱心に取り組み地元の方にもほめられた。
	・楽しみながら体験できた。
	・本校では、京都での班別自由行動の中に、自由選択でとり入れた。実施したのは3分の1程度であったが、自主的な体験ができて、意義深い学習ができた。
教育効果	・来年度取組むように動いている。体験を通して学習への満足感や成就感が深まればよいと思う。
	・その道を究めた人からの技術の伝達は短時間であろうと貴重な体験である。
	・自己表現でき個性を伸ばすのに有効である。
	・実施してよかった。言葉や資料よりも体験することで、多くのものを学べた。今後も取り入れたい。
	・短時間であったが、一定の成果の見られる体験活動であった。
	・班別で体験学習をしたが、どの班も貴重な体験ができた。
	・班ごとに体験学習を行い、宿舎でお互いの情報交換や作品を見せあい、共有する部分もできた。若干幅が広げられた。
	・体験することで、いろいろな感じ方で学習できたのではないが、
	・体験することにより日本文化への理解が深まり興味関心が高まった。
	・生徒同士の理解にもつながり豊かな情操教育ができた。
思い出	・日本の伝統文化を学ぶ上で、知識の導入のみならず、体験から学ぶ貴重な機会となった。この経験は、今後の生活の中で、生きて働く力と考える。
	・見学中心の修学旅行の中で体験学習は良い思い出になる。
	・体験学習は生徒にとって大変貴重な体験ができ、一生の思い出に残るので今後も取り入れる。
	・生徒にとって思い出に残り、教育効果の上がる体験学習を研究していきたい。
継続	・本校は友禅体験学習を取り入れましたが、自分の作品が一生の思い出の品として残り、とても良かったと思います。業者の方も懇切丁寧に指導していただけたので本当によい時間がもてた。
	・体験学習を20年以上同一地域で実施し、地元と学校との関係も深い。
	・普段できない、その土地ならではの特徴ある体験を取り入れていきたい。
	・京都(旅行先)ならではの活動を今後も継続していきたい。
	・雪かきボランティアや老人家庭訪問を取り入れている。地域の方も楽しみにしてくれている。